

瑞浪地区(駅周辺)



①瑞浪駅北地区複合公共施設

2028年度（令和10年度）中の運営開始予定

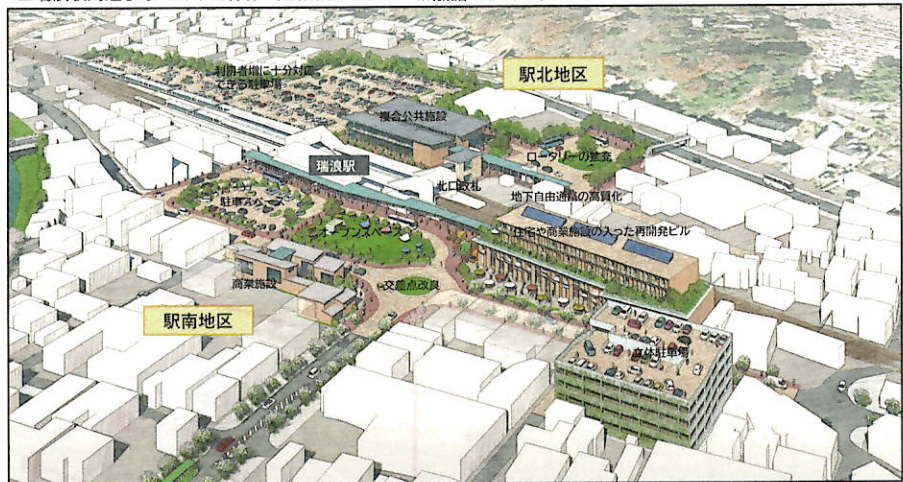
施設集約・複合化・新たなにぎわいの創出

瑞浪駅北地区は中央公民館の一部・図書館機能を集約し新たな機能を追加した複合公共施設の整備を「市民や東濃地域のサードプレイス（自宅、学校・職場以外の居心地の良い場所）」をコンセプトに、図書館利用目的以外の人も訪れ、図書に触れる機会となるようなカフェ等の併設、式典や市民活動の発表ができるホール機能、多目的に使える貸しスペースや、充実した学習室等を整備する。誰もが気軽に立ち寄ることができる居心地の良い空間を作り、様々な目的の人に利用される複合施設を目指し整備を行う。

〈課題〉

駅周辺住民の関心は高いが、市民全体へもっと周知が必要ではないか。特に利用者となってほしい学生や子育て世代へのアプローチにも力を入れられたい。

■瑞浪駅周辺まちづくり全体像（施設説明付き） ※現段階のイメージです



②瑞浪駅南地区市街地再開発（第一種市街地再開発）

年度未定

駅前広場の拡張や歩道を含むオープンスペースの整備を行い、居心地の良い歩きたくなるまちなみを整備する。地域住民だけでなく、多くの人々が訪れ、くつろげる場所を目指し、中心市街地としての賑わいを創出、駅前広場の出口にある交差点の改良や広場の拡張を通じて、特に朝夕の混雑を緩和し、道路利用者の安全性を高めることを目指す。事業は第一種市街地再開発で、地権者が組織する再開発準備組合の主導により事業を進める。

〈課題〉

市も地権者の一員であるが、基本的には再開発（準備）組合の主導で行われる。民間企業の参画など順調に進んでいるが、完成後に住宅や商業床の販売が課題か。

③教育支援センターこぶし教室・保健センター・市民福祉センター（ハートピア）・子ども発達支援センターぽけっと

2027年（令和9年）～2046（令和28年）に複合化

長期計画において、各施設の耐用年数を考慮して保健センターまたは付近の施設と複合化を推進する。

〈課題〉

駅北複合公共施設の計画に福祉棟の計画があったが、規模縮小により計画は止まったままである。複数の施設の複合化を行うため施設規模の検討や、利便性の高い場所の選定を行う必要がある。